

宇治市自転車等駐車場 再整備実施方針

平成31年3月

1. 背景及び経過

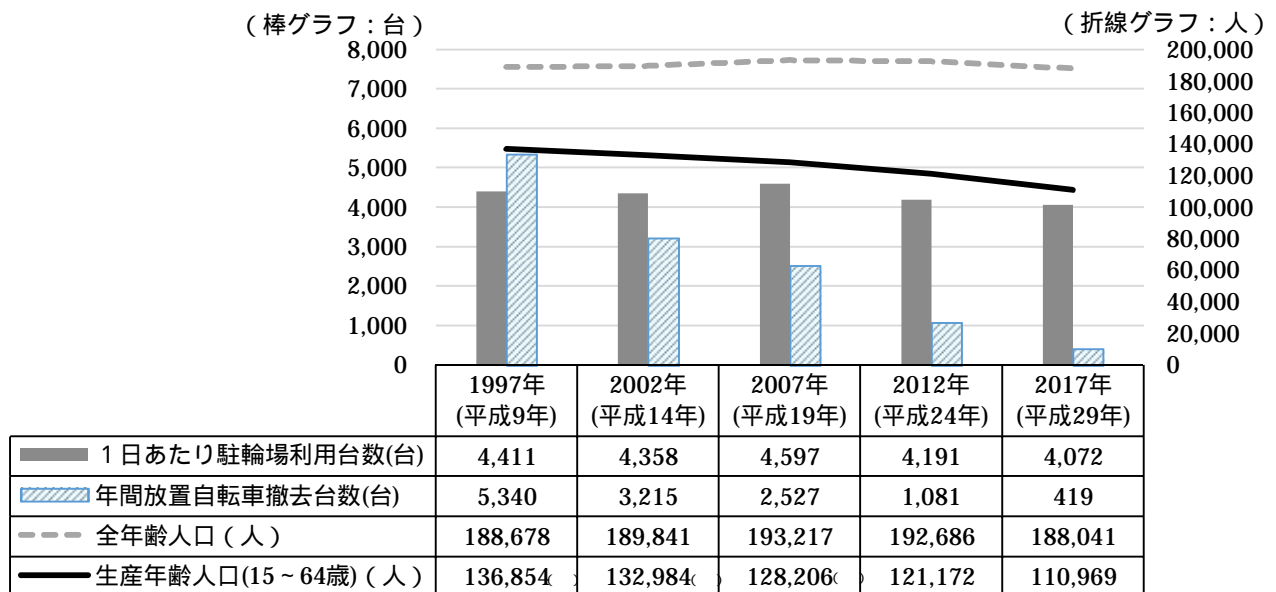
本市では、1970年代後半(昭和50年代)に鉄道駅周辺で通勤や通学、買い物客などによる放置自転車が常態化し、大きな社会問題となっておりました。そこで駅周辺道路等における自転車等の駐車秩序の確立を目的として1982年(昭和57年)に「宇治市自転車等駐車場条例」を制定し、駅周辺への自転車等駐車場(以下「駐輪場」という。)の整備に順次着手し、2001年度(平成13年度)には現状となる17箇所に約7,400台を収容する駐輪場の整備を行ってきたところです。

駐輪場の整備と並行して、1991年(平成3年)4月に「宇治市自転車の駐車秩序の確立に関する条例」を施行し、駅周辺において自転車放置禁止区域を指定、同年10月より放置自転車対策を行った結果、駅周辺での放置自転車は、現在では非常に少ない状況となりました。

今日において駐輪場は、当初の整備目的に大きな効果を発揮していると考えておりますが、老朽化による大規模改修の検討の必要性に迫られていることや、生産年齢人口(15～64歳)の減少などの影響もあり、施設規模と利用実態に乖離が生じる駐輪場が発生してまいりました。

以上のことから、現在の利用実態を踏まえるとともに、今後の施設規模の在り方を検討し、再整備の方針を示すことが必要であると考えております。

グラフ1：【駐輪場利用台数と撤去台数及び人口】



人口は各年10月1日現在の数値

2012年(平成24年)7月の住民基本台帳法改正前の生産年齢人口は推計値

外国人登録の生産年齢人口が資料としてないため次の計算により推計

$$\left(\text{外国人登録生産年齢人口} = \text{外国人登録人口} \times \frac{\text{住民登録生産年齢人口}}{\text{住民登録人口}} \right)$$

2 . 公共施設等総合管理計画の内容

本市においては、市民サービスの向上を図るため、これまで様々な公共施設等を整備してきましたが、施設の多くは建設から相当の年数が経過しております。

一方で、今後も、人口減少や少子高齢化の進展が予測される中であって、社会経済情勢の変化や厳しい財政状況などを踏まえ、限られた資源を有効に活用するとともに、「選択と集中」による効果的・効率的な行政運営が求められております。

こうした状況を踏まえ、公共施設等の適正配置や計画的保全により持続可能な市民サービスを維持していくため、公共施設等の現状と課題を整理し、更新・統廃合・長寿命化などの基本的な方針を定めた「宇治市公共施設等総合管理計画」(以下、「総合管理計画」という。)を2017年(平成29年)に策定しました。

総合管理計画においては、公共施設総量の適正化に向け、公共施設の延べ床面積を、2046年度(平成58年度)までに、20%削減することを目標としています。公共施設の長寿命化に取り組むとともに、より効果的・効率的な管理運営に努め、維持・更新費用等の縮減をあわせて取り組むことで、30年後の人口減少率である20%を削減目標とするものです。

駐輪場については、総合管理計画に基づく試算によると、既存駐輪場の施設規模をそのまま保有し続けると仮定した場合、大規模改修及び更新に約11.5億円が必要と想定されます。総合管理計画の方針に基づき、駐輪場の大規模改修・更新等の方針・手法の検討にあたっては、駐輪需要・稼働率のほか、本市における少子高齢化の進展等を踏まえ、現状施設の規模の見直しを含めて検討します。

3. 施設一覧

各駐輪場の供用開始年度、収容台数、施設形態、延べ床面積は表1のとおりです。

表1：【施設一覧】

No.	駐輪場名	供用開始年度	収容台数	施設形態			延べ床面積 (管理人室含)
				平置き	屋根区分		
					有	無	
1	J R 六地蔵駅前	1992年(平成4年)	538台	平置き			220.00m ²
2	J R 六地蔵駅前第2	1993年(平成5年)	620台	平置き			93.61m ²
3	J R 木幡駅前	1990年(平成2年)	577台	平置き	×		340.99m ²
				1階2層			
4	J R 黄檗駅前	1991年(平成3年)	55台	平置き	×		0m ²
5	J R 黄檗駅前第2	2000年(平成12年)	252台	平置き	×		295.08m ²
				2階3層			
6	J R 宇治駅北	2000年(平成12年)	289台	平置き			109.46m ²
7	J R 宇治駅南	2001年(平成13年)	540台	平置き		×	610.87m ²
				2階3層			
8	J R 小倉駅北	2000年(平成12年)	296台	平置き		×	116.66m ²
9	J R 小倉駅南	2000年(平成12年)	264台	平置き	×		13.22m ²
10	J R 新田駅前	1992年(平成4年)	376台	平置き			137.33m ²
11	京阪木幡駅前	1994年(平成6年)	765台	平置き	×		826.50m ²
				2階3層			
12	京阪三室戸駅前	1982年(昭和57年)	488台	平置き		×	645.43m ²
				1階2層			
13	近鉄小倉駅東	1995年(平成7年)	1,091台	平置き	×		995.55m ²
				2階3層			
14	近鉄小倉駅西第1	1990年(平成2年)	624台	民間賃貸借			
15	近鉄小倉駅西第2	1990年(平成2年)	193台	平置き		×	203.04m ²
16	近鉄伊勢田駅前第1	1986年(昭和61年)	350台	民間賃貸借			
17	近鉄伊勢田駅前第2	1986年(昭和61年)	63台	平置き	×		0m ²
全体			7,381台				4,607.74m ²

屋根区分：駐車区画上部の屋根(天井なども含む)の有無

4 . 稼働率推移及び将来推計

各駐輪場の稼働率の推移及び将来推計は表2のとおりです。

稼働率は、全体として2007年(平成19年度)以降、減少傾向にあります。

駐輪場の利用状況を定期券の購入実績からみると、駐輪場の利用者は65歳未満の方が大半となっていることから、稼働率の減少要因の一つとして、人口減少や少子高齢化による生産年齢人口(15～64歳)の減少が考えられます。

個々の駐輪場においては、駅周辺の土地利用の変化などによる稼働率の増減があり、慢性的に多くの空きが発生している駐輪場がある一方、収容台数が不足する駐輪場があります。

将来推計については、少子高齢化に伴い、総人口及び生産年齢人口の減少が見込まれており、全体としては引き続き減少傾向になると思われます。

表2：【稼働率推移及び将来推計】

No.	駐輪場名	2002年	2007年	2012年	2017年		2028年(推計)	
		平成14年	平成19年	平成24年	平成29年		平成40年	
		稼働率	稼働率	稼働率	稼働率	待機数	稼働率	待機数
1	J R 六地蔵駅前	95.6%	98.9%	98.6%	95.0%	203台	98.0%	204台
2	J R 六地蔵駅前第2	81.0%	100.0%	100.0%	100.0%			
3	J R 木幡駅前	54.5%	50.6%	38.4%	31.8%	0台	29.3%	0台
4	J R 黄檗駅前	94.5%	100.0%	74.5%	63.6%	0台	43.5%	0台
5	J R 黄檗駅前第2	54.6%	55.8%	44.0%	45.4%			
6	J R 宇治駅北	67.1%	90.1%	91.7%	92.3%	0台	71.5%	0台
7	J R 宇治駅南	83.6%	89.6%	88.9%	71.5%			
8	J R 小倉駅北	27.4%	56.3%	60.7%	53.9%	0台	38.3%	0台
9	J R 小倉駅南	32.6%	44.1%	38.4%	28.2%			
10	J R 新田駅前	79.3%	89.3%	88.3%	92.3%	2台	86.6%	2台
11	京阪木幡駅前	42.8%	49.6%	36.1%	26.5%	0台	23.5%	0台
12	京阪三室戸駅前	38.5%	34.8%	38.3%	30.7%	0台	28.4%	0台
13	近鉄小倉駅東	45.4%	49.9%	44.7%	50.6%	0台	44.1%	0台
14	近鉄小倉駅西第1	50.3%	25.7%	17.6%	37.0%			
15	近鉄小倉駅西第2	89.5%	68.7%	52.5%	60.0%			
16	近鉄伊勢田駅前第1	49.3%	31.9%	26.4%	22.4%	0台	30.7%	0台
17	近鉄伊勢田駅前第2	90.5%	96.8%	88.9%	91.9%			
全体稼働率		59.0%	62.3%	56.8%	55.2%	52.3%		
総収容台数		7,381台	7,381台	7,381台	7,381台	7,381台		
総利用台数		4,358台	4,597台	4,191台	4,072台	3,858台		
総空き台数		3,023台	2,784台	3,190台	3,309台	3,523台		

稼働率：利用台数/収容台数

利用台数：一時利用台数(年間平均値) + 定期利用台数(年間平均値)

待機数：定期利用希望者が、満車のため各駅で駐輪できない状況の台数(年間平均値)

2028年(平成40年)推計値：各駅で利用者状況を地域・年齢毎に分析し、推計したもの。ただし、社会動態(転入・転出)については考慮していない。

5 . 実施方針

【基本的な考え方】

整備目的である、「駅周辺道路等における自転車等の駐車秩序の確立」の実現を前提に、駅毎の稼働率や施設老朽化の状況などに応じた駐輪場の再整備を実施するとともに、始発終電対応などの利便性向上の検討を行い、効率的な運営を目指します。

なお、駐輪場の再整備にあたっては以下の5つの事項を総合的に鑑み、施設規模の見直しを行うものとします。

利用実態：(過不足の状況など)

施設形態：(平置き又は複層式など)

施設状態：(老朽化の状況など)

立地環境：(施設の配置状況など)

将来推計：(駐輪需要推計など)

【短期(当初10年間)の取組】

2019年度(平成31年度)～2028年度(平成40年度)

前述の基本的な考え方に沿った施設規模の見直しを検討・実施します。

なお、現時点における駅毎の駐輪場再整備の方向性については、次の通りです。

縮小	J R 木幡駅、J R 黄檗駅、J R 小倉駅、京阪木幡駅、京阪三室戸駅、近鉄小倉駅、近鉄伊勢田駅
増強	J R 六地蔵駅、 J R 新田駅(現状の年間平均値においては、稼働率9割程度であるが、時期により待機者が発生する実態を踏まえ、増強について検討)
現状維持	J R 宇治駅(利便性向上のため電動ゲート設置)

また、全駐輪場の内、供用開始から30年を経過する駐輪場については、長寿命化及び駐輪場の安全性の確認のために必要に応じて点検調査を行い、維持・更新費用等の縮減を考慮した修繕及び施設規模の適正化を図ります。

【長期の取組】

2029年度(平成41年度)～2046年度(平成58年度)

引き続き必要に応じて点検調査を行うとともに、社会情勢の変動などを鑑みながら、2046年度(平成58年度)までに駐輪場の総延べ床面積の20%以上の削減を目標に、施設規模の見直しを実施します。